



# 平泉中第1期工事が完了 新校舎での授業がスタート

1期工事が完了し、新たな歴史が始まる新校舎（写真左）とその役目を終え、解体が始まる旧校舎（写真右）

## 暖かみのある新校舎

昨年5月に始まった平泉中学校改築の第1期工事が完了し、2月1日から新しい校舎での授業がスタートしました。

今回完了した1期工事では、南棟部分の改築が行われ、1階部分には普通教室や図書室、パソコン教室、2階部分には普通教室や理科室など延べ床面積で約2500平方メートルが整備され、全体計画の65%が完了しました。

新しい校舎の内装は白を基調とし、木材をふんだんに使った暖かみのある優しい空間を創出。また窓ガラスも多用し、自然の光を取り込み明るい校舎となるよう配慮しています。



新しい教室での授業風景

2期工事は旧校舎東側部分の解体終了後、4月から着工される予定で残りの北側部分の改築が進められます。

2期工事では音楽室や美術室、そして現在生徒によるワークショップでデザインや使い方が検討されている交流ホールの整備が行われます。来年3月には2カ年にわたり進められてきた校舎部分の全ての工事が完了し、新平泉中学校の歴史が始まります。

## 旧校舎に感謝

新しい校舎での授業がスタートするに当たり、旧校舎とのお別れ会が1月30日、同校体育館で開かれました。

お別れ会では浅沼卓校長、菅原政俊PTA会長に続き、生徒会長の千葉裕香さんが生徒を代表してあいさつ。生徒全員で「平泉伝説」を合唱し、これまでの校舎に感謝の気持ちを表しました。

## 15年ぶりに披露

また平泉中学校で歌われてきた合奏曲「奥の細道」がOBや当時の教師など約100人により復活。15年ぶりに披露され平泉中学校の学舎にその歌声が響き渡りました。



OBらが合奏曲「奥の細道」を披露

合奏曲「奥の細道」は、昭和48年に開催された県音楽教育研究大会一関大会の記念演奏曲として、平泉中学校の校歌を手掛けた川崎祥悦さん（東京都在住）などによって作られ、俳人松尾芭蕉の旅に生きる姿を表現した曲。歌詞の中には「五月雨の降りのかしてや光堂」「夏草や兵どもが夢の跡」と松尾芭蕉が藤原三代の栄華をしのび平泉で詠んだ句が盛り込まれており、当町ゆかりの曲として卒業式などで歌い継がれてきました。

しかし、教職員の人事異動などでこの曲を指導する教員がいなくなり、いつしか歌われなくなりました。

今回「旧校舎とのお別れ会」が開かれるのを契機に昨年10月、

## 明るい校舎でみんな楽しく



これまでの校舎は、たくさんの喜びや悲しみを共にし、支えてくれた大事な存在でした。この校舎があったから楽しく過ごしてきたと思います。

新しい校舎は、教室も廊下も広々していてとても明るい雰囲気です。お気に入りの場所は、廊下に据え付けられた木製のベンチで、みんなで楽しく会話もできます。

これから音楽室や家庭室なども新しくなるので、完成が楽しみです。

## Interview インタビュー

平泉中学校生徒会長  
千葉裕香<sup>さん</sup>（2年）

奥の細道をうたう会会長  
佐藤長伸<sup>さん</sup>（13区）

平泉中OBなどによる「奥の細道をうたう会」が結成。その後、練習を重ねて15年ぶりに披露されました。

合奏曲に参加した人からは「当時の記憶が鮮明によりみがえってきた」「みんなで歌い上げたことに意義がある」と昔を懐かしむ声や達成感に満ちた声が多く聞かれました。

お別れ会終了後には、旧校舎から新校舎への引っ越し作業が行われ、在校生や保護者、OBなどが段ボール箱に詰め込まれた図書や教材などを数多くの思い出とともに新校舎に運び込みました。



在校生らによる引っ越し作業

## 旧校舎の歴史

今回の改築により、その役目を終える旧校舎は、現在の文化遺産センターから昭和53年7月に移転。これまでに4129人



旧校舎への感謝を合唱に込める

## 新しい校舎で新しい歴史を



お別れ会での「奥の細道」はうまく歌えたかは分かりませんが、参加した人たちの思いは通じたと思います。この歌を歌いたいという町民がたくさんいてうれしかった。

何かの機会に歌い継がれていけば良いと思います。合唱は、みんなで協力して作り上げるもので、そこで学んだことは社会に出ても役立つと思います。これからの平中生には、新しい校舎で新しい歴史を作ってほしいと思います。